

第1回 別所中学校区地域部会 意見のまとめ

開催日：平成30年10月23日

会場：別所中学校

1 別所中学校区周辺の課題

- 別所地区の良いところは、地域の人が子どもを育てているという雰囲気があること。人の目の垣根隊の方にもたくさん協力してもらっている。その「地域性」が無くなるのではないかと心配で、今までのものを崩されることに反対する声も当然あると思う。
- 別所地区の中でも子どもが少ない地域や学校から遠い地域は、保護者の負担も大きい。
- 何年後かに、別所小学校が無くなり、三樹小学校や三木小学校に行くとなったら、やはり通学距離が気になる。

2 三木市の学校再編に係る全体案

- 統合や小中一貫校への再編をすることで、通う学校が何度も変わるのはいくない。学校と地域の役割や関係は、長年にわたって築かれてきたものである。次にいつ学校が変わると言うのでは不安である。
- 再編を実施する際は、校区や移行時期など柔軟に対応してほしい。
- 小中一貫校や義務教育学校について、話を聞いていると良い点が多いようなので早く実現してほしい。
- 再編して新しい学校をつくっていくのであれば、心の面、学習面においてしっかりと成果が出ないといけない。教育に費用対効果は馴染まないかもしれないが、学校は、国家100年の大計の要と捉えて、系統的な教育を行う必要がある。
- 小学校を卒業し、中学校に進学するという流れが無くなるのは寂しいが、小中一貫教育と言うので進めていっていいのではないかと。6・3制というのが全てではないと思う。
- 9年間同じ学校に通い続けると変化がないため、強くなれないのではないかと。変化のある中で精神的に強くなり、困難を乗り越えていく力がつくという考え方もある。
- 小学校を卒業して、中学校に行くという経験はできないが、節目節目にイベントを考えてあげると良い。学校再編と周辺地域の発展についても考えなければならない。
- 発達段階、安全面、衛生面等を考えると、階段の高さや窓の手すりなど、学校の施設設備はよく考えないといけない。
- 健常児の教育に焦点を当てて考えられているが、障害児の教育についてもおろそかにならないようにしなければならない。

- 再編すると、どうしても遠くから通う人が出てくる。下校時間について、平日はある程度決まった時間なので良いが、土日は部活動などもあり、登下校時間もバラバラになり、負担になるのではないかと思う。
- 学校を再編することで予算に余裕がある場合には、人員を増やす方に使用してもらいたい。例えば、小さい地域の保護者は、水泳の監視など、PTAの負担が増えてしまうかもしれないので、人員を配置するなど考えてほしい。

3 小学校と中学校の連携、異学年交流

- 別所地区は、一小一中ということで、小学校と中学校の連携はとても進めやすい。今は、小中でお互いに教員が授業を見学したり、児童が部活動や授業を見学したり、体験したりする取組を行っている。
- 中学校入学時には、学習や部活動、先輩との話し方などに戸惑いがあることがアンケートからも分かっている。様々な取組を通じて、不安の解消に努めているが、小中一貫校や義務教育学校にすることでそのような不安が取り除かれることが期待できる。
- 別所小学校では、なかよし班活動という異学年で交流する時間があり、6年生がリードして1から6年生と一緒に遊べる活動を企画している。ほかにも、修学旅行の時期には1年生に折鶴の折り方を教えたり、登下校時に、1年生のランドセルを持ってあげたりする6年生の姿をよく見かける。

4 その他全般

- 別所地区には、巴、朝日が丘などに新興住宅地がある。吉川などの喫緊の地域にも住宅地をつくって、人が集まるような施策、より若い世代が入ってくる施策を市で考えてもらいたい。
- 小規模をどうするかではなく、例えば、三木中学校の生徒を星陽中学校に行かせるという逆の発想はできないのか。
- 今は潤沢な予算があるわけではない。学校再編に係る費用はとても大きいので、熟慮して進めなければならない。
- 学校が無くなると、その周辺に家は建たないという可能性がある。
- 小中一貫校や義務教育学校に再編することで、縦に関係する人数は増えるが、今のままだと横の人数は増えない。学校の再編と共に、横の人数を増やす（住民を増やす）ことも考えないといけない。
- 中学校の部活は非常に大事だと思う。学習面だけではなく、横の繋がり、縦の繋がりを学ぶことができる。指導者の確保にも努めて、部活を維持しないといけない。